

## 香港の小学生が研修にやってきました！



昭和新山を見ながら火山について学びました



噴火湾の恵み・ホタテについてお話を聞きました

令和6年7月4～6日にかけて、香港にあるメリーマウント小学校の児童 28 名が、洞爺湖有珠山ジオパークを訪れました。

香港には「香港ユネスコ世界ジオパーク」があり、日本の3つのユネスコ世界ジオパーク（糸魚川、阿蘇、島原半島）と姉妹提携を結んでいます。

今回は北海道でユネスコ世界ジオパークについて学びたいと、アポイ岳ジオパーク（様似町）を訪れた後、洞爺湖有珠山ジオパークに到着しました。

到着日は壮瞥町で有珠山のガイドツアー、2日目は豊浦町でホタテの養殖について学んだ後、洞爺湖の中島に行きました。最終日はだて歴史文化ミュージアムを訪れ、大地の成り立ちや北海道の歴史について学ぶ、もりだくさんの行程でした。

世界中で自然災害が多発する現在、火山や防災・減災について学ぶ場所と機会が求められています。

大地の成り立ちとともに、壮大な景観やおいしい産品等の恵みを伝えるジオパークでは、今後海外からの教育旅行も増えていくかもしれません。

## 8月26日は『火山防災の日』



大森房吉 教授

令和5年、活動火山対策特別措置法（活火山法）の一部改正により、毎年8月26日が『火山防災の日』に制定されました。

これは明治44（1911）年8月26日に、浅間山（長野県と群馬県にまたがる活火山）に日本で最初の火山観測所が設置され、器械を用いた近代的な観測が始まったことに由来しています。

浅間山では明治42年から噴火が相次いで発生し、周辺住民は大噴火が起きるのでは、と心配していました。この時、火山観測所の建設を強く働きかけたのが、東京帝国大学の大森房吉教授でした。明治43年の有珠山噴火で、世界で初めて噴火中の火山に地震計を持ち込み、地震観測を行った研究者です。

大森博士は明治35年に起きた伊豆島（いずとりしま）の噴火で、全島民125名が亡くなったことを踏まえ、火山を常に観測し、住民の安全確保を目的とした火山防災が必要だと説きました。

『火山防災の日』をきっかけに、「噴火のとき、安全な場所にいるにはどうしたらよいか」ご家族やご友人ともお話してみてもいいでしょうか。

（写真転載、参考：気象庁HP）